



## センサーの管理とセンサー主導のテスト

- [センサーとセンサー主導のテストについて \(1 ページ\)](#)
- [センサーのプロビジョニング \(2 ページ\)](#)
- [センサーを使用したネットワーク正常性のモニタとトラブルシューティング \(8 ページ\)](#)
- [センサーの管理とバックホールの設定 \(17 ページ\)](#)
- [センサー主導テスト \(20 ページ\)](#)

### センサーとセンサー主導のテストについて

センサーはセンサー主導のテストを使用して、ワイヤレスネットワークの正常性を判断します。ワイヤレスネットワークには、AP 無線、WLAN の設定、ワイヤレス ネットワーク サービスが含まれます。

アシュアランス専用センサーをサポートしています。これはセンサー機能を実行するための専用ハードウェアです。

専用の Cisco Aironet 1800s アクティブセンサーは、PnP を使用してブートストラップされます。このセンサーは、アシュアランス サーバの到達可能性の詳細を取得すると、アシュアランス サーバと直接通信します。

#### サポート対象のセンサーとシスコ ワイヤレス コントローラのソフトウェアリリース

センサー機能に必要なシスコ ワイヤレス コントローラと Cisco Aironet 1800s アクティブセンサーイメージの最小ソフトウェアバージョンは、次のとおりです。

サポート対象のセンサーとワイヤレスコントローラ	最小ソフトウェア リリース
シスコ ワイヤレス コントローラ (35xx、55xx、85xx)	8.5.115.0
Cisco Aironet 1800s アクティブセンサー	8.8.263.0

### サポート対象の Cisco Aironet 1800s アクティブセンサーリリース

サポート対象の Cisco Aironet 1800s アクティブセンサーと推奨される Cisco DNA Center のソフトウェアリリースを次の表に示します。



**注目** この表に記載されている Cisco Aironet 1800s アクティブセンサーの最小ソフトウェアリリースを使用していることを確認します。上位の Cisco Aironet 1800s アクティブセンサーのソフトウェアリリースには互換性がありません。

サポート対象の Cisco Aironet 1800s アクティブセンサーのソフトウェアリリース	推奨される Cisco DNA Center のソフトウェアリリース
1.3.3.0	1.3.3.x 以降
1.3.1.2	1.3.1.2
8.8.263.0	1.3.0.3 以前 (1.2.x など)

## センサーのプロビジョニング

### Provision the Wireless Cisco Aironet 1800s Active Sensor

**ステップ 1** イーサネットモジュールなしで Cisco Aironet AP 1800S センサーを使用している場合は、ワイヤレスコントローラの Cisco プロビジョニング SSID を有効にする必要があります。

(注) ソフトウェアリリース 1.3.1.2 よりも古い Cisco Aironet 1800s アクティブセンサーの場合は、センサーデバイスプロファイル **CiscoProvisioningSSID** を選択しないようにしてください。代わりに、バックホール用に独自の SSID を選択します。[バックホールの設定の管理 \(18 ページ\)](#) を参照してください。

Cisco ワイヤレス コントローラについては、[ワイヤレス コントローラのプロビジョニング SSID の有効化 \(3 ページ\)](#) を参照してください。

Cisco Catalyst ワイヤレス コントローラについては、[Cisco Catalyst ワイヤレスコントローラのシスコプロビジョニング SSID の有効化 \(3 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ 2** センサーのバックホール設定を作成します。

[バックホールの設定の管理 \(18 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ 3** Cisco Aironet 1800s アクティブ センサーをプロビジョニングします。

[ワイヤレスまたはセンサー デバイスのプロビジョニング \(4 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ4** (オプション) デバイスインベントリでセンサーデバイスが使用可能になった後、ソフトウェアイメージのアップグレードを選択できます。[Cisco DNA Center ユーザガイド](#)の「ソフトウェアイメージのプロビジョニング」のトピックを参照してください。

---

## ワイヤレスコントローラのプロビジョニング SSID の有効化

---

**ステップ1** Cisco ワイヤレスコントローラにログインします。

[ネットワークサマリー (Network Summary)] ページが表示されます。

**ステップ2** [Advanced] タブをクリックします。

[概要 (Summary)] ページが表示されます。

**ステップ3** 上部のメニューバーで、[管理 (Management)] タブをクリックします。

**ステップ4** 左側のナビゲーションウィンドウで、[クラウドサービス (Cloud Services)] > [センサ (Sensor)] を選択します。

[バックホール設定 (Backhaul Configuration)] ページが表示されます。

**ステップ5** [SSID] フィールドに「**TFTP**」と入力します。

**ステップ6** [Auth-type] ドロップダウンリストから [Open] を選択します。

**ステップ7** [Provisioning] ドロップダウンリストから [Enable] を選択します。

**ステップ8** [DHCP Interface] ドロップダウンリストが [management] に設定されていることを確認します。

**ステップ9** [Apply] をクリックします。

プロビジョニングを有効化すると、[CiscoSensorProvisioning] という非表示の WLAN が作成され、センサーは EAP-TLS クライアント証明書を使用して参加します。これにより、センサーは DHCP オプション 43 を使用するか、または DNS を介して Cisco DNA Center の IP アドレスを見つけることができます。

---

## Cisco Catalyst ワイヤレスコントローラのスコーププロビジョニング SSID の有効化

---

**ステップ1** Cisco Catalyst ワイヤレスコントローラ WebUI にログインします。

**ステップ2** 左側のナビゲーションペインで、[Configuration] > [Cloud Services] の順に選択します。 >

[Cloud Services] ページが表示されます。

**ステップ3** [Network Assurance] タブで、次の手順を実行します。

- [Network Assurance Configuration] エリアで、[Service Status] トグルボタンを [Enabled] に設定します。
- [Provisioning] エリアで [Provisioning] トグルボタンを [Enabled] に設定します。

**ステップ4** (オプション) [VLAN Interface] フィールドに VLAN インターフェイスの名前を入力します。

**ステップ5** [Apply] をクリックします。

プロビジョニングを有効化すると、[CiscoSensorProvisioning] という非表示の WLAN が作成されます。

ウィンドウの右下隅に、次のエラーメッセージが表示されます。

**Error in Configuring**

CLI Line 2 Please associate the wlan and policy profile CiscoSensorProvisioning to the desired AP.

(注) このメッセージはエラーではありません。メッセージには、実行する必要があるアクションに関する情報が示されています。

**ステップ6** [CiscoSensorProvisioning] というポリシープロファイルが作成されていることを確認します。

a) 左側のナビゲーションペインで、[Configuration] > [Policy] > の順に選択します。

[Policy Profile] ページが表示されます。

b) [CiscoSensorProvisioning] ポリシーが [Policy Tag Name] 列の下に表示されていることを確認します。

**ステップ7** WLAN および [CiscoSensorProvisioning] ポリシープロファイルを適切な AP に関連付けます。次の手順を実行します。

a) 左側のナビゲーションペインで、[Configuration] > [Tags] > の順に選択します。

[Manage Tags] ページが表示されます。


b) [Policy] タブで [Add] をクリックします。

c) [Name] フィールドにポリシータグの一意の名前を入力します。

d) [Add] をクリックします。

e) [WLAN Profile] ドロップダウンリストから [CiscoSensorProvisioning] を選択します。

f) [Policy Profile] ドロップダウンリストから、[CiscoSensorProvisioning] を選択します。

g)  をクリックします。

h) [Save & Apply to Device] をクリックしてポリシータグを保存します。

(注) AP のポリシータグを変更すると、AP に関連付けられているクライアントが切断され、再接続される可能性があります。

## ワイヤレスまたはセンサー デバイスのプロビジョニング

デバイスを要求すると、デバイスにネットワークプロファイルを割り当て、それをインベントリに追加することでプロビジョニングされます。まだ起動していないデバイスを初めて要求する場合は、起動時に自動的にプロビジョニングされるようにデバイスを計画します。

デバイスが要求される場合、Cisco DNA Center からのシステム構成 CLI コマンドの一部はまずデバイスにプッシュされてから、定義した [Onboarding Configuration (Day-0)] テンプレートにプッシュされます。[Onboarding Configuration] テンプレートに同じ CLI コマンドがある場合、

これらは最後に適用されるため、システム設定が上書きされます。システムによってプッシュされる CLI コマンドには、次のものがあります。

- デバイスのログイン情報 (CLI および SNMP)
- SSH v2 および SCP サーバの有効化
- HTTP および HTTPS サーバの無効化



(注) デバイスのデバイス可制御性が有効になっている場合 (デフォルトで有効)、デバイスがインベントリに追加されたときに次の設定が追加されます。

- SNMP、NETCONF、Cisco TrustSec (CTS) ログイン情報
- IPDT の有効化
- コントローラ証明書
- SNMPトラップサーバ定義
- Syslog サーバ定義
- NetFlow コレクタ定義
- ワイヤレス ネットワーク アシユアランス

この手順では、メインの [プラグアンドプレイ (Plug and Play) ] タブからデバイスを要求する方法について説明します。代わりに、[要求 (Claim) ] をクリックしてデバイスの詳細ウィンドウからデバイスを要求することもできます。

#### 始める前に

- プロビジョニングするシスコネットワークデバイスについて、サポートされているソフトウェアリリースがあり、工場出荷時のデフォルト状態になっていることを確認します。以前に設定されたネットワークデバイス、または不明な状態になっているネットワークデバイスを使用している場合は、『[Cisco Digital Network Architecture Center のネットワーク プラグアンドプレイのトラブルシューティングガイド \[英語\]](#)』で、デバイスのクリーンアップとリセットの詳細を参照してください。
- ネットワーク階層内のサイトを定義します。[About Network Hierarchy](#)を参照してください。
- デバイスの CLI および SNMP ログイン情報を定義します。
- センサー デバイスをプロビジョニングするには、センサーが Cisco DNA Center エンタープライズ IP アドレス (private/enp9s0) を介して到達可能であることを確認します。DHCP オプション 43 の文字列を使用すると、デバイスが Cisco DNA Center の未要求モードで到達可能になります。ただし、デバイスを要求するには、インターフェイス enp9s0 IP アドレスから到達可能である必要があります。DHCP サーバで ASCII 値「5A1D;B2;K4;1172.16.x.x;J80」を使用して、NTP サーバ (DHCP オプション 42) とベン

ダー固有の DHCP オプション 43 を設定します。ここで、172.16.x.x は enp9s0 インターフェイスに関連付けられた Cisco DNA Center の仮想 IP アドレスです。

- ステップ 1** Cisco DNA Center のホームページで、[Provision] > [Devices] > [Plug and Play] > > の順に選択します。
- ステップ 2** テーブル内のデバイスを表示します。
- [フィルタ (Filter) ] または [検索 (Find) ] オプションを使用して、特定のデバイスを見つけることができます。
- ステップ 3** 要求する 1 つ以上のワイヤレスデバイスの横にあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** デバイステーブルの上にあるメニューバーで、[アクション (Actions) ] > [要求 (Claim) ] の順に選択します。
- [デバイスの要求 (Claim Devices) ] ウィンドウが開き、最初の手順「サイトの割り当て」が表示されません。
- ステップ 5** (任意) 必要に応じて、最初の列のデバイス名を変更します。
- ステップ 6** (任意) 必要に応じて、2 番目の列のデバイスタイプを変更します。デバイスが使用しているモードに応じて、AP (アクセスポイント) または ME (Mobility Express) を選択できます。
- 誤ったモードを選択すると、デバイスのプロビジョニングエラーにつながります。この項目は、センサーデバイスには表示されません。
- ステップ 7** [サイトの選択 (Select a Site) ] ドロップダウンリストから、各デバイスに割り当てるサイトとフロアを選択します。アクセスポイントデバイスは、ワイヤレスコントローラを備えたフロアに割り当てる必要があります。
- 同じサイトを最初のデバイスとしてすべての他のデバイスに適用するには、[Apply Site to All] チェックボックスをオンにします。あるデバイスのサイトを他のいくつかのデバイスに割り当てるには、[Assign this Site to Other Devices] をクリックし、デバイスを選択して [Assign] をクリックします。ワイヤレスデバイスは、ビルディング自体ではなくビルディング内のフロアにのみ割り当てることができます。
- ステップ 8** [次へ (Next)] をクリックします。
- [設定 (Configuration) ] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 9** (任意) テーブルに表示される列を変更するには、テーブル見出しの右端にある 3 つの点をクリックし、目的の列を選択します。[Apply] をクリックして、変更内容を保存します。
- ステップ 10** 設定するデバイスの名前をクリックし、次の手順を実行します。
- デバイス設定の概要を表示し、変更が不要な場合は [Cancel] をクリックします。
  - (任意) [デバイス名 (Device Name) ] フィールドで、必要に応じてデバイス名を変更します。
  - アクセスポイントデバイスの場合、[RF プロファイル (RF Profile) ] ドロップダウンリストで、デバイスに適用する RF プロファイルを選択します。これは、1 つのプロファイルをデフォルトとして指定した場合に設定できます。
  - For a Mobility Express device, enter values in the following fields : **Management IP, Subnet Mask, and Gateway.**
  - ワイヤレスセンサーデバイスの場合、[センサーの設定 (Sensor Settings) ] ドロップダウンリストで、デバイスに適用するセンサー デバイス プロファイルを選択します。

- f) 変更した場合は、[保存 (Save)] をクリックします。それ以外の場合は、[キャンセル (Cancel)] をクリックしてリストに戻り、他のデバイスを設定します。
- g) [アクション (Actions)] 列の [他のデバイスに...を適用 (Apply ... to Other Devices)] をクリックして、あるデバイスに割り当てた設定を同じタイプの他のデバイスに適用できます。

**ステップ 11** 複数のデバイスを選択してプロビジョニングした場合は、リストで次のデバイスをクリックし、この設定手順を繰り返します。これを、すべてのデバイスに対して実行します。

**ステップ 12** [次へ (Next)] をクリックします。

[概要 (Summary)] ウィンドウが表示されます。ここで、デバイスや設定に関する詳細を確認できます。

**ステップ 13** 設定プレビューが成功したかどうかを確認するには、各デバイスの [Day-0 Config プレビューステータス (Day-0 Config Preview Status)] 列をチェックします。

プレビューでエラーが表示された場合は、デバイスを要求する前に問題を解決してプロビジョニングエラーを回避する必要があります。[設定 (Configuration)] 手順に戻って設定を変更したり、[設計 (Design)] エリアに再度アクセスしてネットワーク設計の設定を更新したり、ネットワーク接続の問題を解決したりすることが必要になる場合があります。デバイスを管理しているワイヤレス LAN コントローラがインベントリに追加され、ワイヤレスデバイスが割り当てられているサイトに割り当てられていることを確認します。

**ステップ 14** [要求 (Claim)] をクリックします。  
確認のダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 15** [はい (Yes)] をクリックしてデバイスを要求し、プロビジョニングプロセスを開始します。

### 次のタスク

プロビジョニングプロセスを完了するには、デバイスがインベントリに追加された後、[Inventory] タブに移動し、デバイスを選択し、[Actions] > [Provision] > [Provision Device] をクリックします。すべての手順を実行し、[Summary] ステップで [Deploy] をクリックします。[Summary] には、デバイスにプッシュされる残りのネットワーク設定が表示されます。このプロセスは、[Design] エリアで設定した可能性のあるネットワーク設定をプッシュする場合に必要です。プラグアンドプレイプロビジョニング中は、デバイスのログイン情報とオンボーディング設定のみがデバイスにプッシュされます。[Inventory] からプロビジョニングが完了するまで、他のネットワーク設定はプッシュされません。さらに、デバイスは、RADIUS および TACACS Cisco DNA Center の AAA クライアントとして ISE に追加されます (これらが設定されている場合)。

# センサーを使用したネットワーク正常性のモニタとトラブルシューティング

## すべてのワイヤレスセンサーを使用したネットワーク正常性のモニタとトラブルシューティング

すべてのワイヤレスセンサーから受信したデータに基づくネットワーク正常性のグローバルビューを取得するには、次の手順を実行します。

### 始める前に

センサー主導テストが追加され、スケジュール済みであることを確認してください。[センサー主導テストの作成と実行（レガシー）（21 ページ）](#) または [センサー主導テストの作成と実行（テンプレート）（26 ページ）](#) を参照してください。

---

**ステップ 1** Cisco DNA Centerのホームページで、**アシュアランス** タブをクリックします。

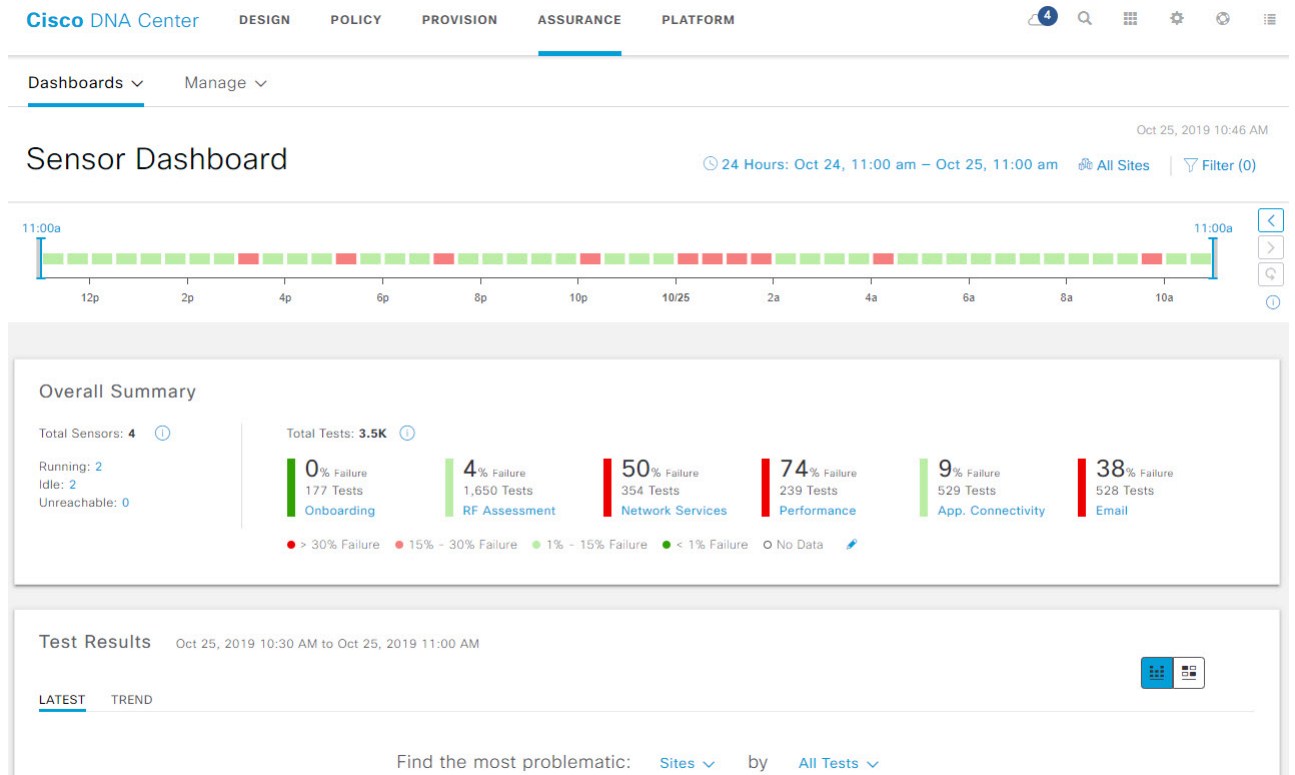
[Overall Health] ダッシュボードが表示されます。

**ステップ 2** **[Dashboards]** > **[Wireless Sensor]** の順に選択します。


[Sensor Dashboard] ダッシュボードが表示されます。








図 1: Sensor Dashboard









ステップ 3 [Sensor Dashboard Timeline] には、次の機能が用意されています。

タイムラインエリア	
項目	説明
 時間範囲の設定	ダッシュボードで指定された時間範囲内のデータを表示できるようにします。次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> <li>ドロップダウンメニューで範囲の長さ ([3 Hours]、[24 Hours]、または[7 days] ) を選択します。</li> <li>[開始日付 (Start Date) ]と時刻、[終了日付 (End Date) ]と時刻を指定します。</li> <li>[Apply] をクリックします。</li> </ol>



タイムラインエリア	
項目	説明
 <p>階層ロケーションの設定</p>	<p>ダッシュボードに表示するデータをネットワークのロケーションから選択できます。ダッシュボードにセンサーデータを表示するには、ネットワーク内のサイト、ビルディング、またはフロアのチェックボックスをオンにします。</p> <p>(注) ダッシュボードにデータを表示しないように、すべてのロケーションを除外することはできません。すべてのロケーションのチェックボックスをオフにすると、すべてのロケーションのデータがダッシュボードに表示されます。</p>
 <p>Filter</p>	<p>このフィルタ処理では、SSIDおよび無線周波数帯域に基づいて、ダッシュボードに表示するデータを選択できます。</p> <p>フィルタを追加するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.  Filter をクリックします。</li> <li>2. ドロップダウンメニューから [SSID] タブをクリックし、該当する SSID のチェックボックスをオンにします。</li> <li>3. ドロップダウンメニューから、[Band] タブをクリックし、[2.4 GHz] または [5 GHz] のオプションボタンを選択します。</li> <li>4. [Apply] をクリックします。</li> </ol> <p>選択したすべてのフィルタを削除するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.  Filter をクリックします。</li> <li>2. [Clear Filters] をクリックします。</li> </ol>
<p>全体テスト失敗率のタイムライン</p>	<p>タイムラインには、時間範囲内の特定の時刻に全体テストが失敗した割合が表示されます。時間範囲は、タイムラインの上にある  [Time Range] によって決まります。</p> <p>タイムラインのブロックは、時間範囲内の特定の時間枠を表します。各ブロックの時間枠は、タイムラインに設定された時間範囲によって決まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 時間範囲が [3 Hours] の場合、各ブロックは 15 分を表します。</li> <li>• 時間範囲が [24 Hours] の場合、各ブロックは 30 分を表します。</li> <li>• 時間範囲が [7 Days] の場合、各ブロックは 4 時間を表します。</li> </ul> <p>ブロックは、テストが失敗した割合の重大度を示すために色分けされています。</p> <p>ブロックの上にマウスカーソルを合わせると、各テストカテゴリごとにテスト失敗率の内訳が表示されます。</p>


ステップ 4 次の機能には、[Overall Summary] ダッシュレットを使用します。

[Overall Health Summary] ダッシュレット	
項目	説明
[Total Sensors] エリア	<p>ネットワーク内のすべてのセンサーとそのステータスの全体像が表示されます。センサーのステータスタイプは、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Idle] : センサーはオンボードされており、スケジュールされたテストはありません。</li> <li>• [Running] : センサーはオンボードされており、テストスイートまたはテストテンプレートに含まれています。</li> <li>• [Unreachable] : センサーからハートビートが受信されませんでした。</li> </ul> <p>ステータスタイプの横にあるハイパーリンク番号をクリックすると、スライドインペインが開き、そのステータスのセンサーが表示されます。</p> <p>スライドインペインで[Name]カラムの下にあるセンサー名をクリックすると、そのセンサーの360度ビューが表示されます。「<a href="#">ワイヤレスセンサーを使用したネットワーク正常性のモニタとトラブルシューティング (14 ページ)</a>」を参照してください。</p>

[Overall Health Summary] ダッシュレット	
項目	説明
全体テスト	<p>すべてのセンサーで実行されたテストの合計数と、次のテストカテゴリに基づくテスト結果の内訳が表示されます。</p> <p><b>オンボーディング</b>  <b>RF アセスメント</b>  <b>ネットワーク サービス</b>  <b>パフォーマンス</b>  <b>App. 接続性</b>  <b>Email</b></p> <p>テストカテゴリをクリックすると、そのテスト結果に関する追加の詳細情報が表示されるスライドインペインを開くことができます。</p> <p>スライドインペインで、左側のテストタイプのタブをクリックすると、そのテストタイプのデータが記載されたスライドインペインが表示されます。スライドインペインには、次の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• テスト結果、将来のトレンド、およびテストで使用された AP のリストが表示されたチャート。</li> </ul> <p>(注) テストカテゴリが <b>RF アセスメント</b> の場合、チャートには、テスト結果ではなく、KPI データレートと SNR が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• データタイプのカテゴリ：上位のエラー理由（該当する場合）、上位の AP、上位のロケーション、上位の帯域、および上位の SSID（該当する場合）。</li> <li>• テストを実行したセンサーの詳細データが格納されたテーブル。</li> </ul> <p>データタイプカテゴリからデータセグメントをクリックすると、テーブルに表示するデータをフィルタリングできます。</p>
 しきい値の編集	<p>テスト失敗率の重大度を示す色分けされた範囲のしきい値は、カスタマイズできます。</p> <p> &gt; 30% Failure  15% - 30% Failure  1% - 15% Failure  &lt; 1% Failure</p> <p>しきい値をカスタマイズするには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.  アイコンをクリックします。</li> <li>2. [Edit Threshold] メニューで、色分けされた各範囲のフィールドにパーセンテージ値を入力します。</li> <li>3. [Apply] をクリックします。</li> </ol>

**ステップ 5** [Test Results] ダッシュレットを使用して、センサーテストが最も失敗したネットワーク内のロケーションを表示します。

[Test Results] ダッシュレット	
項目	説明
[Latest] タブと [Trend] タブ	<p>これらのタブでは、ダッシュレットに表示するデータの範囲を定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Latest] : ウィンドウの上部にあるタイムラインに、選択した時間枠のデータが表示されます。</li> <li>• [Trend] : 過去 24 時間のデータが表示されます。</li> </ul>
 <p>[Heatmap View] と [Card View] トグル</p>	<p>このトグルにより、ダッシュレットのビューを [Heatmap View] と [Card View] で切り替えることができます。</p> <p>デフォルトでは、[Heatmap View] が表示されます。</p>
 <p>Heatmap View</p>	<p>次の統計カテゴリの上位 5 ランキングがダッシュレットの上部に表示されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Worst Location, Buildings, Floors] または [Sensors] : テスト失敗率が最も高かったサイト、ビルディング、フロア、またはセンサー。</li> <li>• [Largest Health Drop by Location, Buildings, Floors] または [Sensors] : 正常性の低下が最も急激なサイト、ビルディング、フロア、センサー。</li> <li>• [Most Common Test Failure] : テスト失敗率が最も高かったテストタイプ。</li> </ul> <p>各統計情報カテゴリの上位スポットのみが表示されます。[Show Data for Impact Top 5] をクリックすると、完全なランキングが表示されます。</p> <p>ランキングの下には、センサーテストエラーの結果がヒートマップでも表現されます。ヒートマップでは、テスト失敗率の重大度を示すために、ブロックが色分けされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ランキングやヒートマップに表示するデータをソートするには、[Find the most problematic] エリアのドロップダウンリストを使用します。最初のドロップダウンリストでは、ロケーションまたはセンサー別にデータをソートできます。2番目のドロップリストでは、テストタイプ別にデータをソートできます。</li> <li>• 特定のロケーションまたはセンサーのヒートマップをフィルタリングするには、検索フィールドを使用します。</li> <li>• ブロックの上にカーソルを合わせると、テスト失敗の正確なパーセンテージ値が表示されます。</li> <li>• 色分けされたブロックをクリックすると、スライドインペインが開き、交差する部分のテスト結果に関する詳細が表示されます。</li> </ul>

[Test Results] ダッシュレット	
項目	説明
 カードビュー	カード形式でデータが表示され、高レベルのモニタリングと比較が可能です。データをソートするには、[Find the most problematic] エリアのドロップダウンリストを使用します。

## ワイヤレスセンサーを使用したネットワーク正常性のモニタとトラブルシューティング

特定のワイヤレスセンサーの360度ビューを表示するには、次の手順を実行します。センサーのテスト結果、パフォーマンスの傾向、およびネイバー AP を表示できます。また、センサーのイベントログの表示や、ダウンロードもできます。

**ステップ 1** Cisco DNA Centerのホームページで、**アシュアランス** タブをクリックします。

[Overall Health] ダッシュボードが表示されます。

**ステップ 2** [Dashboards] > [Wireless Sensor] を選択します。

[Sensor Dashboard] が表示されます。

**ステップ 3** [Sensors Dashboard] から、次のいずれかを実行します。

- [Overall Summary] ダッシュレットで、[Running]、[Idle]、[Unreachable] エリアのいずれかでハイパーリンク番号をクリックします。

次に、[Sensor Status] スライドインペインで、センサーのハイパーリンク名をクリックします。

- [Overall Summary] ダッシュレットで、ハイパーリンクされたテストカテゴリをクリックします。

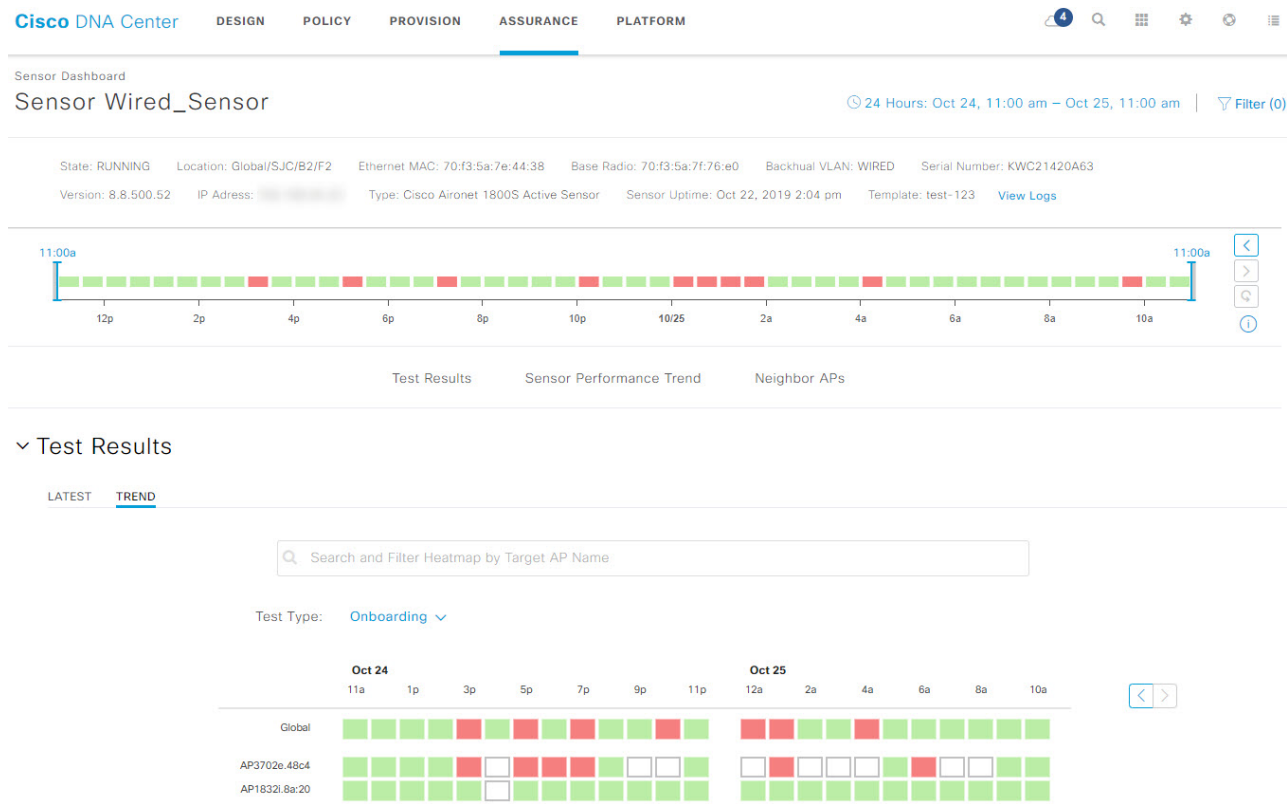
スライドインペインで、テーブルからセンサーのハイパーリンク名をクリックします。

- [Test Results] ダッシュレットで、ヒートマップから色分けされたボックスをクリックします。

スライドインペインで、テーブルからセンサーのハイパーリンク名をクリックします。

センサーの 360 度ビューが表示されます。

図 2: センサーの 360 度ビュー



**ステップ 4** 右上隅にある [Time Range] の設定をクリックして、ウィンドウに表示するデータの時間範囲を指定します。

- ドロップダウンメニューから、時間範囲として [3 hours]、[24 hours]、または [7 days] を選択します。
- 開始日付と時刻、終了日付と時刻を指定します。
- [Apply] をクリックします。

**ステップ 5** センサーの基本情報（センサーのシリアル番号、現在の状態、稼働時間、バックホールタイプ、IP アドレスなど）を表示するには、タイムラインの上にあるヘッダーを使用します。また、センサーのイベントログの表示やダウンロードも可能です。


イベントログの表示やダウンロードには、次の手順を実行します。

- ヘッダーの最後にある [View Logs] をクリックします。  
[Event Logs] スライドインペインが現れ、イベントログが表示されます。
- イベントログの保存先となるサポートバンドルファイルを生成するには、[Event Logs] スライドインペインで、[Request Support Bundle] をクリックします。


**注目** サポートバンドル要求がダウンロードできるようになるまでに、約 3 ~ 5 分かかります。

- [Download Support Bundle] をクリックして、サポートバンドルのダウンロードプロンプトを開きます。

**ステップ 6** タイムラインを使用して、指定した時間範囲内の特定の時刻に全体テストが失敗した割合を表示します。タイムラインには、次の機能があります。

- タイムラインの上にある [Time Range]  で時間範囲を設定します。
- タイムラインのブロックによって示される特定の時間枠で、全体テストが失敗した割合を表示します。ブロックの上にマウスカーソルを合わせると、各テストカテゴリごとにテスト失敗率の内訳が表示されます。

**ステップ 7** 折りたたみ可能なカテゴリを使用して、テスト結果、パフォーマンス傾向、およびネイバー AP に関する情報を表示します。

<p><b>テスト結果カテゴリ</b></p> <p>センサーテスト失敗の結果は、テスト対象の AP ごとにヒートマップでも表現されます。ヒートマップでは、テスト失敗率の重大度を示すために、ブロックが色分けされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• テストタイプ別にデータをソートするには、[Test Type] ドロップダウンリストを使用します。</li> <li>• 特定の AP のヒートマップをフィルタ処理するには、検索フィールドを使用します。</li> <li>• ブロックの上にカーソルを合わせると、テスト失敗の正確なパーセンテージ値が表示されます。</li> <li>• [Latest] および [Trend] タブをクリックすると、カテゴリに表示されるデータの範囲が切り替わります。             <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Latest] : ウィンドウの上部にあるタイムラインに、選択した時間枠のデータが表示されます。</li> <li>• [Trend] : 過去 24 時間のデータが表示されます。</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>センサーパフォーマンスのトレンドカテゴリ</b></p> <p>テストタイプに基づいて、センサーのパフォーマンスデータを折れ線グラフまたはチャートで表示します。時間ベースのテストタイプの場合、比較ビューを使用すると、現行センサー、最高パフォーマンスのセンサー、および最悪パフォーマンスのセンサーのパフォーマンスを表示できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 特定のテストタイプのデータを表示するには、[Test Type] ドロップダウンリストを使用します。</li> <li>• 時間ベースのテストタイプの場合は、 <b>Add Custom Location</b> をクリックすると、メニューを使用して、特定のロケーションのセンサー パフォーマンス データを追加できます。サイト、ビルディング、またはフロアのセンサーパフォーマンスを選択できます。</li> </ul>
<p><b>ネイバー AP カテゴリ</b></p> <p>センサーのネイバー AP とその RSSI が、リストビューとマップビューで表示されます。</p> <p>周波数帯域に基づいて AP をフィルタ処理するには、[Band] エリアのオプションボタンを使用します。</p> <p>(注) センサーは、30 分ごとにネイバー AP をスキャンします。</p>



# センサーの管理とバックホールの設定

## ネットワーク内のセンサーの管理

ネットワーク内のオンボード済みセンサーを表示するには、次の手順を実行します。SSHとステータス LED を有効にして、これらのセンサーの名前を変更できます。

### 始める前に

センサーがサイトに割り当てられていることを確認します。

**ステップ 1** Cisco DNA Centerのホームページで、**アシュアランス** タブをクリックします。

[Overall Health] ダッシュボードが表示されます。

**ステップ 2** **[Manage]** > **[Sensors]** > **[Sensor List]** を選択します。



[Sensor List] ウィンドウが開き、ネットワーク内のオンボード済みセンサーが表示されます。

**ステップ 3** 左側のペインで、表示するネットワーク階層を指定します。

**ステップ 4** 基準に適合するセンサーを表示するには、テーブルの上にあるカテゴリをクリックします。カテゴリは次のとおりです。

- **[Total]** : 選択したネットワーク階層内のすべてのセンサー。
- **[Running]** : 現在テストを実行しているセンサーが表示されます。
- **[Idle]** : テストが割り当てられていないセンサーが表示されます。
- **[Unreachable]** : オンボードされているが、Cisco DNA Center に応答していないセンサーが表示されます。

**ステップ 5** テーブルに表示するデータをカスタマイズできます。

- a)  をクリックします。
- b) メニューからテーブルに表示するデータのチェックボックスをオンにします。
- c)  をクリックします。

**ステップ 6** センサーの SSH 設定を構成するには、次の手順を実行します。

- a) センサーのチェックボックスをオンにします。
- b) **[Actions]** ドロップダウンリストにカーソルを合わせて、**[Edit SSH]** を選択します。  
[Edit SSH] スライドインペインが表示されます。
- c) **[EDIT SSH]** スライドインペインで、**[SSH]** トグルをクリックして SSH を有効にします。
- d) **[Username]** および **[Password]** フィールドに、使用する SSH ログイン情報を入力します。


- e)  をクリックします。

**ステップ7** センサーのステータス LED を変更するには、次の手順を実行します。

- センサーのチェックボックスをオンにします。
- [Actions] ドロップダウンリストにカーソルを合わせて、[Edit LED] を選択します。  
[Edit SSH] スライドインペインが表示されます。
- [Edit LED] スライドインペインで、[LED] トグルをクリックして、ステータス LED を有効または無効にします。

**ステップ8**  をクリックします。

**ステップ9** センサーの名前を変更するには、次の手順を実行します。

- センサーのチェックボックスをオンにします。
- [Actions] ドロップダウンリストにカーソルを合わせて、[Edit Sensor Name(s)] を選択します。  
[Edit Sensor Name(s)] スライドインペインが表示されます。
- [Edit Sensor Name(s)] スライドインペインで、[Name] フィールドに名前を入力します。
-  をクリックします。

## バックホールの設定の管理

ワイヤレスセンサのバックホール設定を表示、作成、管理するには、次の手順を実行します。ワイヤレスセンサーには、Cisco DNA Center と通信するためのバックホール SSID が必要です。

永続的なワイヤレスバックホール接続の詳細については、[センサデバイスでの永続的なワイヤレスバックホール接続 \(19 ページ\)](#) を参照してください。

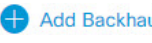
**ステップ1** Cisco DNA Center のホームページで、**アシュアランス** タブをクリックします。

[Overall Health] ダッシュボードが表示されます。


**ステップ2** [Manage] > [Sensors] > [Backhaul Settings] の順に選択します。

[Backhaul Settings] ウィンドウが表示されます。

**ステップ3** バックホール SSID を追加および管理するには、次の手順を実行します。

-  **Add Backhaul** をクリックします。  
[Create Sensor Backhaul SSID Assignment] ウィンドウが開きます。
- [Create Sensor Backhaul SSID Assignment] ウィンドウで、次の設定を行います。
  - [Settings Name] : バックホール SSID の名前を入力します。

- [Wireless Network Name (SSID)] : このバックホール SSID に使用するワイヤレスネットワーク (SSID) を選択します。
- [Level of Security] : 選択した SSID で使用されている暗号化と認証タイプが表示されます。使用可能なセキュリティのオプションは次のとおりです。

セキュリティオプション	説明
WPA2 企業	ユーザ認証に Extensible Authentication Protocol (EAP; 拡張可能認証プロトコル) セキュリティを使用します。 ドロップダウンリストから [EAP method] を選択します。 EAP-TLS を選択した場合は、証明書とそのパスワードが必要です。証明書をアップロードするには、[Certificate] ドロップダウンメニューをクリックしてから、  <a href="#">Add New Certificate Bundle</a> をクリックします。
WPA2 パーソナル	ユーザ認証に WPA2 暗号化事前共有キー (PSK) を使用します。 [Password] フィールドに使用する PSK を入力します。
オープン (Open)	セキュリティまたは認証は使用されません。

c) [保存 (Save)] をクリックします。

**ステップ 4** 既存のバックホール設定を編集するには、次の手順を実行します。

- バックホール設定のチェックボックスをオンにします。
- [Actions] ドロップダウンリストにカーソルを合わせて、[Edit] を選択します。

**ステップ 5** バックホール設定を削除するには、次の手順を実行します。

- バックホール設定のチェックボックスをオンにします。
- [Actions] ドロップダウンリストにカーソルを合わせて、[Delete] を選択します。

## センサデバイスでの永続的なワイヤレスバックホール接続

Cisco DNA Center、リリース 1.3.3.0 はセンサデバイスでの永続的なワイヤレスバックホール接続をサポートしており、ワイヤレステストのアクティビティに関係なく、ワイヤレス接続は「常時オン」になっています。

次の表には、Cisco DNA Center、リリース 1.3.1.0 以前のリリースと Cisco DNA Center、リリース 1.3.3.0 の違いとメリットが表示されています。

Cisco DNA Center、リリース 1.3.1.0 以前のリリース	Cisco DNA Center、リリース 1.3.3.0
<p>センサではワイヤレステストとワイヤレスバックホール接続の両方に、単一の MAC アドレス（ベース無線 MAC + 0x11）が使用されます。</p>	<p>ワイヤレスセンサ専用のバックホール接続では、バックホールとワイヤレス用に次の 2 つの MAC アドレスが使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ベース無線 + 0x10（バックホール SSID）</li> <li>• ベース無線 + 0x11（テスト SSID）</li> </ul> <p>有線センサではベース無線 + 0x10（テスト SSID）MAC アドレスがテスト用に使用されます。</p>
<p>センサでは単一の同時無線操作が使用されません。</p>	<p>センサではデュアル同時無線動作が使用されます。1 つはバックホール接続用、もう 1 つはワイヤレステスト用です。</p>
<p>センサとネットワークとの接続は頻繁に確立・解除されます。</p>	<p>センサには永続的な同時ワイヤレスバックホール接続が備わっており、ワイヤレスのテストアクティビティに関係なく、ワイヤレス接続は「常にオン」になります。</p> <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• スキャンを実行している間、および別の帯域をテストするためにインターフェイスを切り換えている間は、バックホール接続が中断します。</li> <li>• バックホール接続の中断の頻度は、テスト設定に応じて異なります。</li> <li>• バックホールとテスト SSID の帯域が同じである場合、バックホール接続は永続になりません。</li> </ul>

## センサー主導テスト

### センサー主導テストの作成方法 アシユアランス

アシユアランスでセンサー主導テストを作成する方法は2通りあります。次の方法の中から1つを選択してください。

メソッド	説明
レガシー	<p>アシュアランス リリース1.3.1.0 に実装されているメソッドを使用して、センサー主導テストを作成できます。</p> <p>「<a href="#">センサー主導テストの作成と実行（レガシー）（21 ページ）</a>」を参照してください。</p> <p><b>注目</b> アシュアランス リリース 1.3.1.0 では、このメソッドは<b>テストスイート</b>と呼ばれていました。</p>
テンプレート	<p>テンプレートを使用してセンサー主導テストを作成できます。</p> <p>このメソッドにより、再利用可能なセンサー主導テストのテンプレートを作成し、ネットワーク内の複数のロケーションに迅速に展開できます。</p> <p>「<a href="#">センサー主導テストの作成と実行（テンプレート）（26 ページ）</a>」を参照してください。</p>

## センサー主導テストの作成と実行（レガシー）

レガシーメソッドでセンサー主導テストを作成して実行するには、次の手順を実行します。このメソッドは、アシュアランス リリース 1.3.1.0 で導入され、**テストスイート**と呼ばれていました。

### 始める前に


Cisco Aironet 1800s アクティブセンサーを使用してセンサー主導のテストを実行している場合、必ず PnP を使用してセンサーをプロビジョニングし、[インベントリ (Inventory)] で表示されるようにしてください。 [Provision the Wireless Cisco Aironet 1800s Active Sensor（2 ページ）](#) を参照してください。

**ステップ 1** Cisco DNA Center のホームページで、**アシュアランス** タブをクリックします。

[Overall Health] ダッシュボードが表示されます。

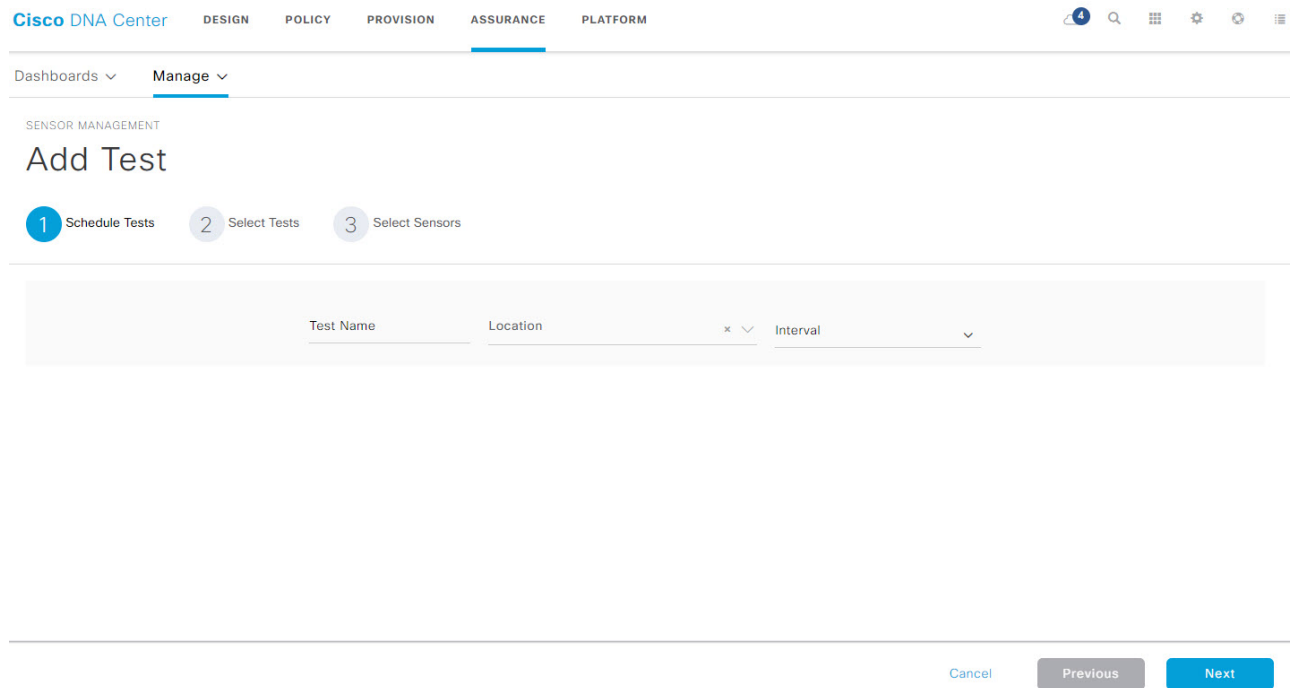
**ステップ 2** [Manage] > [Sensors] > [Legacy Tests] の順に選択します。

[Legacy Tests] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** 新しいセンサーテストを追加するには、右上隅にある  **Add Test** をクリックします。


[Add Test] ウィンドウが表示されます。


図 3: [Add Test] ウィンドウ



ステップ 4 [Schedule Tests] ステップでは、次の設定を行います。

設定	説明
[Test Name] フィールド	テストスイート名を入力します。 (注) 文字、数字、アンダースコア、ハイフン、ピリオドのみ使用できます。

設定	説明
<p>[Location] ドロップダウン リスト</p>	<p>次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ドロップダウンリストからセンサーのロケーションを選択します。</li> <li>テストに追加する無線センサーの SSID のチェックボックスをオンにします。</li> <li>必要に応じて、<b>ログイン情報</b>を設定します。</li> </ol> <p><b>Web 認証対応 SSID に適用</b></p> <p>レイヤ 3 セキュリティでは、SSID で <b>Web 認証</b>が有効になっている場合、次の機能を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザ認証による <b>Web 認証</b>の場合は、必要なログイン情報を入力します。</li> <li><b>パススルー方式</b>による <b>Web 認証</b>の場合は、メールアドレスの入力を選択できます。</li> </ul> <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>センサーのテストでは、<b>内部認証</b>のみがサポートされています。</li> <li><b>Web 認証</b>は、シスコ ワイヤレス コントローラおよびソフトウェア リリース 8.7 を搭載した Cisco Aironet 1800s アクティブセンサーでサポートされます。</li> </ul> <p><b>WPA2 Enterprise 対応 SSID に適用</b></p> <p>サポートされるメソッドは、<b>EAP-FAST</b>、<b>PEAP MSCHAPv2</b>、および <b>EAP-TLS</b> です。</p> <p>EAP-TLS を選択した場合は、証明書とそのパスワードが必要です。証明書をアップロードするには、[Certificate] ドロップダウンメニューをクリックしてから、 <b>Add New Certificate Bundle</b> をクリックします。</p>
<p>[Interval] ドロップダウンメニュー</p>	<p>センサーテストのスケジュールを指定します。次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>[Daily]</b> : センサーテストは継続的に反復実行されます。デフォルトの間隔は 1 時間です。</li> <li><b>[Once]</b> : センサーテストは、指定された日時に 1 回実行されます。</li> </ul>

ステップ 5  をクリックして、[Select Tests] ステップに進みます。

ステップ 6 [Select Tests] ステップでは、次の設定を行います。

- a) 実行対象の [Network Tests] のチェックボックスをオンにして、テストに必要な情報を入力します。

ネットワークのテスト	
[Test Type]	説明
オンボーディングのテスト	<p>クライアントのオンボーディングテスト（通常、関連付け、AAA、および DHCP を含む）を実行します。</p> <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このオプションはデフォルトで選択されていて、選択解除できません。</li> <li>オンボーディングのテストは、Cisco Aironet 1800s アクティブセンサーのソフトウェアリリース 8.8.260.0 以降でサポートされています。</li> </ul>
DNS のテスト	ドメイン名の IP アドレスを解決します。
ホストの到達可能性テスト	Internet Control Message Protocol (ICMP) エコー要求を使用して到達可能性を確認します。
RADIUS のテスト	センサーが Dot1x サプリカントとして機能し、ワイヤレスで認証します。Dot1x サプリカントは、Protected Extensible Authentication Protocol (PEAP) と Password Authentication Protocol (PAP) や Microsoft バージョンのチャレンジハンドシェイク認証プロトコル (MS-CHAP) などのプロトコルをサポートしています。

- b) 実行対象の [Performance Tests] のチェックボックスをオンにして、テストに必要な情報を入力します。

パフォーマンステスト	
[Test Type]	説明
速度テスト	ネットワーク診断テスト (NDT) サーバがある場合は、所定のフィールドに NDT サーバの IP アドレスを入力します。NDT サーバがプロキシサーバ経由で到達可能である場合は、所定のフィールドにプロキシサーバの IP アドレスを入力します。
IPSLA テスト	<p>センサーから AP への UDP ジッター、UDP エコー、パケット損失、および遅延の測定を実行します。</p> <p>IPSLA テストを実行するには、ドロップダウンリストから各 SSID の [Service Level] オプションを選択します。[Platinum]（音声）、[Gold]（ビデオ）、[Silver]（ベストエフォート）、および [Bronze]（バックグラウンド）のオプションがあります。</p>

(注) 速度テストと IPSLA テストは、シスコワイヤレスコントローラおよびソフトウェアリリース 8.8 以降の Cisco Aironet 1800s アクティブセンサーでサポートされます。

- c) 実行対象の [Application Tests] のチェックボックスをオンにして、テストに必要な情報を入力します。




電子メールのテスト	
[Test Type]	説明
電子メールのテスト	主要な構成は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [POP3] : Post Office Protocol3。POP3 サーバの TCP ポート (110) に接続します。</li> <li>• [IMAP] : Internet Message Access Protocol。IMAP サーバの TCP ポート (143) に接続します。</li> <li>• [Outlook Web Server] : Outlook Web サーバ (OWS) にログインします。</li> </ul>
Web のテスト	指定された URL へのアクセスと応答データの確認をテストします。
ファイル転送のテスト	ファイルのアップロードおよびダウンロード動作をテストします。 (注) センサーテストの最大ファイルサイズは 5 MB です。

ステップ7  をクリックして、**センサーの選択**ステップに進みます。

ステップ8 [Select Tests] ステップでは、次の設定を行います。

- すべての AP について RSSI しきい値を設定するには、次の操作を実行します。
  1. [Threshold] をクリックして、[RSSI Threshold] スライダーを目的の値までドラッグします。
  2. [Number of Target APs] ドロップダウンリストから、センサでテストする AP 番号を選択します。
  3. [Apply] をクリックします。
- 特定の AP を選択してテストするには、次の手順を実行します。
  1. テストに使用するセンサーのチェックボックスをオンにします。
  2. [Target AP #] 列の [V] をクリックして、すべてのセンサーのネイバー AP を表示します。
  3. [Target AP] 列で、テストする AP のチェックボックスをオンにします。
    - (注)
      - AP は 5 つまで選択できます。
      - センサーのネイバー AP は 30 分ごとに更新されます。

ステップ9  をクリックして、センサーテストを作成します。

新しいテストが追加され、[Test Suites] ウィンドウに表示されます。

## センサー主導テストの作成と実行（テンプレート）

テンプレートを使用してセンサー主導テストを作成および実行するには、次の手順を実行します。テンプレートを使用したセンサー主導テストのワークフローは、次の2つの部分から構成されます。

1. **テストテンプレートの作成**：テスト対象の SSID、使用するテストタイプ、AP カバレッジなどのテスト構成を設定します。
2. **テストテンプレートの展開**：テストテンプレートの作成後、テスト対象のロケーションを選択し、テストスケジュールを設定します。テストテンプレートを展開すると、実行の準備が整います。

センサー主導テストを複数のロケーションや複数のスケジュールで実行する必要があるユースケースの場合、テンプレートを使用すると便利です。テンプレートを使用すると、テンプレートのコピーを作成して、テストロケーションやスケジュールの各インスタンスに対して展開できます。これにより、各インスタンスに対して同じテストを繰り返し作成する必要がなくなります。

### 始める前に

Cisco Aironet 1800s アクティブセンサーを使用してセンサー主導のテストを実行している場合、必ず PnP を使用してセンサーをプロビジョニングし、[インベントリ (Inventory)] で表示されるようにしてください。 [Provision the Wireless Cisco Aironet 1800s Active Sensor \(2 ページ\)](#) を参照してください。

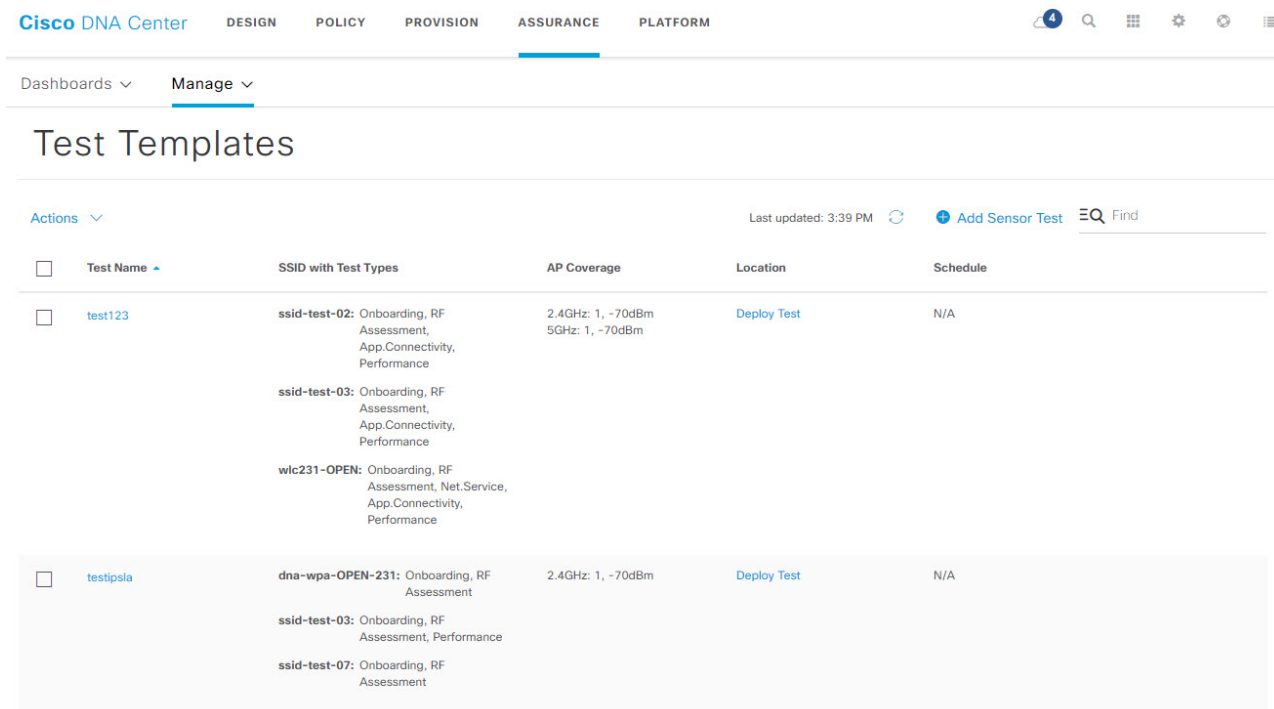
---

**ステップ 1** Cisco DNA Center のホームページで、**アシュアランス** タブをクリックします。

[Overall Health] ダッシュボードが表示されます。

**ステップ 2** **[Manage] > [Sensors] > [Test Templates]** を選択します。

[Test Templates ウィンドウ] が表示されます。



**ステップ 3** 新しいセンサーテストテンプレートを作成するには、**+ Add Sensor Test** をクリックします。センサーテストテンプレートを作成するためのウィザードが表示されます。

**ステップ 4** [Set up Sensor Test] ステップでは、次の設定を行います。

- [Test Template Name] : テストスイート名を入力します。  
(注) 文字、数字、アンダースコア、ハイフン、ピリオドのみ使用できます。
- [Ssid Selection] : センサーテストを行う SSID のチェックボックスをオンにします。

**ステップ 5** **Next** をクリックします。

**ステップ 6** [Enter SSID Credentials] ステップでは、選択した SSID のログイン情報を入力します。

- セキュリティが**オープン**な SSID の場合は、次を選択します。
  - [Open] : パススルー方式の Web 認証を使用した SSID の場合は、電子メールアドレスを入力します。
  - [ISE Guest Portal] : ISE ゲストポータル ラベルを選択し、[Apply] をクリックします。
- **WPA2 パーソナル**セキュリティを使用した SSID の場合は、パスワードを入力します。
- **WPA2 エンタープライズ**セキュリティを使用した SSID の場合は、EAP メソッド、ユーザ名、およびパスワードを入力します。

## ステップ 7

Next

をクリックします。

## ステップ 8

[Define Sensor Test Category Details] ステップでは、対象にするテストタイプのチェックボックスをオンにします。

- a) テストカテゴリが**オンボーディング**の場合、テストタイプは [Association]、[Authentication]、[DHCP] です。

(注) これらのテストタイプはすべてデフォルトで選択されており、テストテンプレートから除外できません。

- b) テストカテゴリが**RF アセスメント**の場合、テストタイプは [Data Rate]、[SNR] です。

(注) これらのテストタイプはすべてデフォルトで選択されており、テストテンプレートから除外できません。

- c) テストカテゴリが**ネットワークサービステスト**の場合は、次のテストタイプから選択します。

- [DNS] : ドメイン名の IP アドレスを解決します。
- [RADIUS] : センサーが Dot1x サプリカントとして機能し、ワイヤレスで認証します。

- d) テストカテゴリが**パフォーマンステスト**の場合は、次のテストタイプから選択します。

- [Internet (NDT) ] : ネットワーク診断ツール (NDT) を使用して速度テストを実行します。  
ネットワーク診断テスト (NDT) サーバがある場合は、所定のフィールドに NDT サーバの IP アドレスを入力します。NDT サーバがプロキシサーバ経由で到達可能である場合は、所定のフィールドにプロキシサーバの IP アドレスを入力します。
- [IP SLA] : センサーから AP への UDP ジッター、UDP エコー、パケット損失、および遅延の測定を実行します。  
IPSLA テストを実行するには、ドロップダウンリストから各 SSID の [Service Level] オプションを選択します。[Platinum] (音声)、[Gold] (ビデオ)、[Silver] (ベストエフォート)、および [Bronze] (バックグラウンド) のオプションがあります。

- e) テストカテゴリが**アプリケーションテスト**の場合、次のテストタイプから選択します。

- [Host Reachabilit] : (ICMP) エコー要求を使用した到達可能性をテストします。
- [Web] : 指定した URL へのアクセスと応答データの検証をテストします。
- [FTP] : ファイルのアップロードおよびダウンロード動作をテストします。

(注) センサーテストの最大ファイルサイズは 5 MB です。

- f) テストカテゴリが**電子メール**の場合、次のテストタイプから選択します。

- [POP3] : Post Office Protocol3。POP3 サーバの TCP ポート (110) に接続します。
- [IMAP] : Internet Message Access Protocol。IMAP サーバの TCP ポート (143) に接続します。

- [Outlook Web Access] : Outlook Web サーバにログインし、アクセスを検証します。

ステップ 9  をクリックします。

ステップ 10 AP カバレッジの選択ステップでは、次を実行します。

- [2.4GHz] と [5GHz] チェックボックスでテストする周波数帯域を選択します。
- 選択した帯域の [Number of Target APs] ドロップダウンリストで、センサーでテストする AP 番号を選択します。


(注) AP は 5 つまで選択できます。

- 選択した帯域の [RSSI Range] スライダで、該当する RSSI までをドラッグします。

ステップ 11  をクリックします。

ステップ 12 [Summary] ステップでは、テンプレートの設定を確認します。

[SSIDs] や [AP Coverage] ステップで、[Edit] をクリックすると、設定をやり直すことができます。

ステップ 13  をクリックしてテンプレートを作成します。

テストテンプレートが作成されると、確認のためのダイアログボックスが表示されます。


ステップ 14 [Done! Sensor Test Created] 確認ウィンドウで  をクリックして、テストテンプレートを実行するロケーションとスケジュールを設定します。


**重要** テストを展開せずに [Test Templates] ウィンドウに戻る場合は、[Location] 列から [Deploy Test] をクリックすると、テスト展開の次の手順に進むことができます。

ステップ 15 [Select Location] ステップでは、左側の階層メニューを使用して、テストテンプレートを展開するサイト、ビルディング、ロケーションのチェックボックスをオンにします。

ステップ 16  をクリックします。

ステップ 17 [Set Schedule] ステップでは、テスト頻度オプションを次から 1 つ選択します。

- [Periodic] : 指定した間隔でテストを実行します。[Interval] ドロップダウンリストから、間隔を選択します。
- [Scheduled] : 指定した期間中、指定した曜日にテストを実行します。
  - [S]、[M]、[T]、[W]、[T]、[F]、[S] の各ボタンをクリックして、テストを実行する曜日を選択します。
  - 選択した曜日に対して、[From] タイムピッカーからテスト期間の開始時刻と終了時刻を指定します。
  - [Select Value] ドロップダウンメニューで、該当するテスト期間を選択します。
  - 選択した曜日に別のテスト期間を追加するには、 Add をクリックして、テスト期間を設定するための新しい行を追加します。

5. テスト期間を削除するには、 をクリックします。

- [Continuous] : テストは無期限に実行され、完了後に繰り返されます。


ステップ 18  をクリックします。

ステップ 19 [Summary] ステップで、展開の詳細を確認します。

[Location] や [Schedule] ステップで、[Edit] をクリックすると、設定をやり直すことができます。

ステップ 20  をクリックします。

[Test Template] ウィンドウにテストテンプレートが表示されます。

ステップ 21 テストテンプレートでテストを実行するには、 をクリックします。  
センサー主導テストテンプレートの実行が開始され、確認のためのダイアログボックスが表示されます。

### 次のタスク

既存のテストテンプレートを管理します。「[センサー主導テストの管理 \(30 ページ\)](#)」を参照してください。

## センサー主導テストの管理

センサー主導テストのテンプレートを管理するには、次の手順に従います。センサー主導テストのテンプレートの複製や削除だけでなく、実行中のテンプレートの展開を解除することもできます。

### 始める前に

センサー主導テストのテンプレートを作成します。「[センサー主導テストの作成と実行 \(テンプレート\) \(26 ページ\)](#)」を参照してください。


ステップ 1 Cisco DNA Centerのホームページで、**アシュアランス** タブをクリックします。

[Overall Health] ダッシュボードが表示されます。

ステップ 2 [Manage] > [Sensors] > [Test Templates] を選択します。

[Test Templates] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 テストテンプレートを複製するには、次の手順を実行します。

- 複製するテストテンプレートのチェックボックスをオンにします。
- [Actions] > [Duplicate] を選択します。
- [Input the new Test Name] ダイアログボックスで、テストテンプレートの複製名を入力します。
-  をクリックします。

[Test Templates] ウィンドウに複製されたテストテンプレートが表示されます。テストを展開するには、[Location] ステップから [Deploy Test] をクリックします。

**ステップ 4** テストテンプレートを削除するには、次の手順を実行します。

- a) 複製するテストテンプレートのチェックボックスをオンにします。
- b) [Actions] > [Delete] を選択します。
- c) [Warning] ダイアログボックスで、[Yes] をクリックします。  
テストテンプレートが削除されます。

**ステップ 5** テストテンプレートの展開を解除するには、次の手順を実行します。

- a) 展開を解除する実行中のテストテンプレートのチェックボックスをオンにします。
- b) [Actions] > [Undeploy] を選択します。
- c) [Warning] ダイアログボックスで、[Yes] をクリックします。  
テストテンプレートの実行が停止されます。

**警告**      テストテンプレートの展開を解除すると、ロケーションとスケジュールの設定が削除されます。

---

